

第8期 第2四半期

株主の皆様へ

2009年1月1日～2009年6月30日

CONTENTS

世界のモノづくりを進化させる 「産業用センサ」	1
株主の皆様へ	3
コラボ体制と事例	5
TOPICS① 展示会レポート ■ '09画像センシング展に出展	6
TOPICS② 製品レポート ■ 当社製の画像センサが業界標準に	7
要約第2四半期連結財務諸表	8
会社概要／株式の状況	10



世界のモノづくりを 進化させる「産業用センサ」

社会からも、企業からも求められる産業用センサ

「安全・安心な商品を、低価格で求めたい」—そんな社会のニーズを実現するために、世界の工場では、品質管理と効率生産を実現する要として産業用センサが使われています。社会と企業、それぞれのニーズを背景に、当社製品の活躍の場も年々広がっています。

センサが求められる背景

社会的 背景

- ・高品質で低価格な商品を求める消費者ニーズ
- ・製品や食品の安全に関する意識の高まり
- ・トレーサビリティ確保への要望

企業の ニーズ

- ・グローバルなコスト競争に打ち勝つ生産力
- ・スピーディで合理的な生産
- ・サプライチェーンの最適化

産業用センサが実現するソリューション

直接、モノに触れることなく、数量や位置などさまざまな特徴を検出できるセンシング技術。産業用センサは、センシング技術を使って、生産性や品質を高めるために、世界のモノづくりの現場でさまざまなソリューションを実現します。

1. 生産性の向上

高速で稼働する生産ラインで、大量に流れる製品をカウントしたり、微妙な差異を一瞬に見分けるなど、生産性向上に欠かせない存在です。

〈ソリューション例〉

- ・大量生産される製品を高速でチェック
- ・省力化が図れてコストダウン
- ・人の労働では非効率な作業を自動化

2. 品質の向上

人の目ではわからない微細な変化や差異をキャッチできるなど、品質の向上に欠かせない存在です。

〈ソリューション例〉

- ・生産プロセスの初期で不良品を排除
- ・品質保持のため出荷前の全品チェック
- ・人の目では見えない微細な傷を発見



当社製品の特長

	当社製品	特長	製品使用事例
光電 センサ	<p>「Z-eco」シリーズ 2009年5月発売</p> 	<p>検出物の有無を高精度に、高速で判定</p> <p>汎用性が高いアンプ内蔵式光電センサの分野で、国内最安値※を実現。その訳は、スイッチング回路と受光素子を一つにしたチップオンボードの独自開発。消費電流35%減(当社従来品比)にも成功した新世代製品の誕生です。</p> <p>※標準価格における当社調査</p>	  <p>ダンボールの通過確認 基板の位置決め</p>
変位 センサ	<p>「CD33」シリーズ 2009年6月発売</p> 	<p>対象物の高さや厚みなどを高精度に測定</p> <p>精度と測定安定性を徹底的に追求し、検出物の色や光沢による誤差をシャットアウト。軽量化によって装置への組み込みに最適な製品で、同型品では国内最安値を実現。半導体や太陽電池などの業界で導入拡大が期待されます。</p>	  <p>実装部品の高さ測定 シート材のループ制御</p>
画像 センサ	<p>「CVS4」シリーズ コラボ製品提供開始 2009年2月</p> 	<p>検査対象物の色や形、文字などの違いを認識</p> <p>印字検査に適した文字認識センサとして人気の「CVS4」シリーズ。株式会社デジタルとの協業によって、タッチパネル付き表示器の接続が可能に。視認性や操作性が向上し、食品業界への販売拡大が期待されます。</p>	  <p>印刷物の乱丁検査 ラベルの印字チェック</p>
LED 照明	<p>OPBシリーズ 2009年6月発売</p> 	<p>画像処理検査に不可欠な照明ユニット</p> <p>新レンズによって従来品に比べ光量を3倍に。温度によって変動しやすい明るさを補正する回路「FALUX」も独自に開発して搭載。業界最高水準の性能を、業界最安値で実現した新世代LEDバー照明です。</p>	 <p>LED照明使用例</p>

「高品質、だけど低価格。」をコンセプトにシェアを拡大します。



代表取締役社長

小國 勇

Q 当第2四半期の業績とポイントを教えてください。

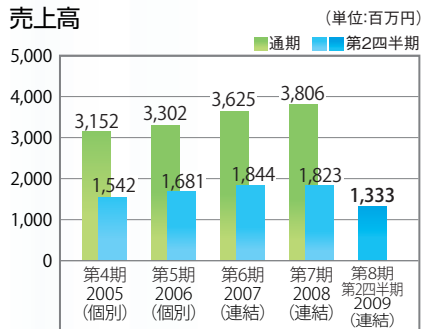
A 注力する国内市場では、ほぼ前年同期並みの売上を確保。欧州市場が想定以上に低迷し、業績に影響しました。

世界規模での深刻な不況によって、国内外ともに設備投資の凍結や抑制傾向が幅広い業種に広がり、当社グループの顧客業界でも需要は大きく落ち込みました。

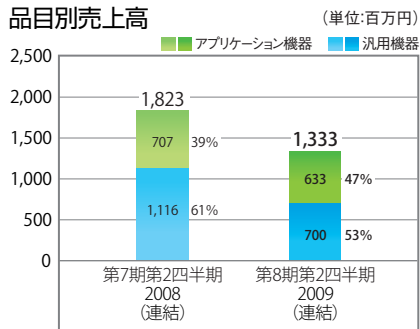
厳しい事業環境のなかで当社グループは、「高品質、だけど低価格。」をコンセプトとした新製品の開発や、有力企業との協業体制の拡大などを積極的に推進しました。重点市場とする国内市場では、食品業界向けの製品が伸長し、また太陽電池や液晶関連の市場を開拓するなど、国内売上高はほぼ前年同期並みを確保しました。

しかし、海外市場、とりわけ欧州市場の景況が想定以上に悪化し、需要が大きく落ち込んだ結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は13億33百万円となりました。利益面は、営業利益は27百万円、経常利益は9百万円でしたが、繰延税金資産47百万円を取崩したことによって四半期純損失は38百万円となりました。

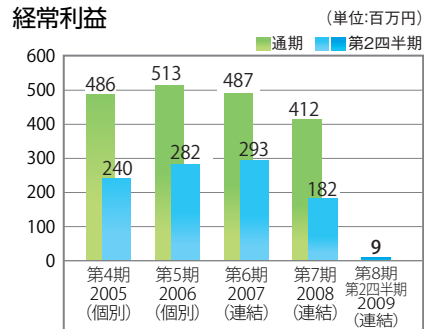
売上高



品目別売上高



経常利益



Q 今後の営業戦略と新製品の開発状況について教えてください。

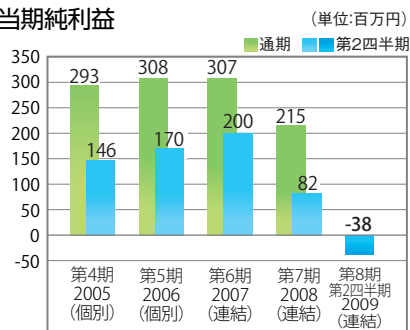
A 画期的な新製品を下期に発売します。また、さまざまな販売強化策を実行していきます。

当期下期には、産業用センサ分野で圧倒的に需要が多いファイバーセンサにおいて、世界最高機能の製品を発売する予定です。また取扱製品を大幅に拡大し、提携するSICKAG社(独)の全製品の販売を当社でも開始するほか、協業による扱い製品も増やします。

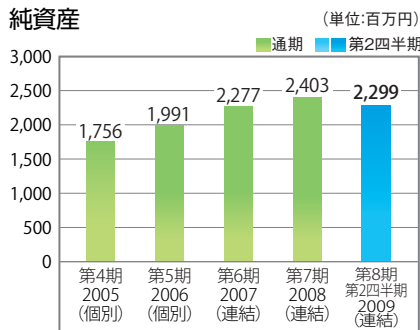
汎用品から高精度品まで、ユーザーニーズに幅広くお応えできる当社グループの製品力をPRし、認知度を高めるために、BtoBサイトでは画期的なポイント制を導入したホームページに刷新したほか、販売カタログを刷新するなど積極的な販売強化に取り組みます。

新規ユーザー業界における当社のシェア獲得はこれからですが、市場環境にマッチした製品戦略によって引き合いは増加しつつあります。ご採用までには検討時間が必要なことから、業績への反映は来期以降になりますが、設備投資が回復するタイミングで、当社のシェアを一気に高めるさまざまな販売戦略を推進していきます。

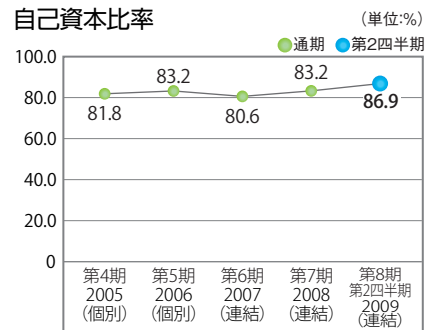
当期純利益



純資産



自己資本比率



Q 配当と通期の見通しについて教えてください。

A 欧州市場の景況が厳しいことから当初見込みを修正。年間配当金についても減配とさせていただきます。

配当予想の修正でお知らせしましたように、業績と株主還元とのバランスを総合的に勘案した結果、誠に遺憾ではございますが、1株当たりの配当金を中間期1,000円、期末1,500円とし、年間配当金を2,500円とさせていただきます。

下期につきましては、画像センサ分野の伸長や新製品の拡販、新規顧客の開拓などによって、国内市場での受注は上期を上回るものの、欧州向け製品は引き続き厳しい状況が続くものと予想されます。そのため通期の連結業績予想については、売上高29億円、営業利益40百万円、当期純利益は25百万円の損失を見込んでいます。

厳しい事業環境ですが、これを乗り越える布石を着実に打ちながら、独自製品の比率を高め、強固な事業基盤を構築していきます。

株主の皆様には、今後とも長期的な視点からご支援いただけますようお願い申し上げます。

コア領域を中心に他社とのコラボ(協業)を拡大し、さらに魅力的な製品として提供しています。

当社は画像センサ分野を中心に、優れた技術を有する他社とのコラボレーション(協業)を積極的に推進しています。

画像センサ分野は当社が強みとする製品領域であり、さまざまなユーザーニーズにお応えする豊富な製品を開発しています。

この優位性に加え、他社製品と組み合わせることで機能や操作性を向上させ、さらに付加価値の高い製品として提供しています。

より高い検査精度を

DECSYS

株式会社デクシス



「画像処理ならデクシス」と国内外で高く評価される同社(本社:千葉)。最先端技術を駆使した同社の製品を当社でも販売開始し、ユーザーの高精度化ニーズにお応えします。

markem-image

イマージュ株式会社
(インクジェットプリンター)



マーキング機器の専門メーカーである同社(本社:東京)に「MVS-OCR」を供給することによって、プリンタの設定情報やフォントデータを共有。機器の素早い立ち上げと文字認識精度の向上を実現しました。

より使いやすく

Pro-face

株式会社デジタル
(FAタッチパネル)



印字検査用「CVS4」は、同社(本社:大阪)のタッチパネル付き表示器との接続を可能としました。表示器のリーディングガンパニーである同社との協業によって、機器の操作性をさらに高めました。



画像センサ

「CVSシリーズ」「MVSシリーズ」

機能をコンパクトに集約し、簡単操作を実現した画像センサのベストセラー機、CVSシリーズ・MVSシリーズ。

自社開発のため、ユーザーニーズに応じて仕様変更などの設計自由度が高く、コラボによる他社製品との組み合わせにも適した製品です。

'09画像センシング展に出展

新製品「OPBシリーズ」に強い手応え

当社は2009年6月、パシフィコ横浜で開催された「'09画像センシング展」に出展しました。この画像処理関連機器の総合展示会には186社が出展し、昨年を上回る17,500人強の来場者がありました。

当社は、新製品の次世代LEDバー照明「OPBシリーズ」を中心に出展。独自開発の明るさ補正回路「FALUX」の効果を示すデモも実施し、来場者から「画期的だ」「すぐにでも採用したい」といった声が数多く寄せられました。

性能を高めたうえに、従来製品から3割もの価格ダウンを実現したことから高い関心を集め、販売拡大への強い手ごたえを感じました。



製品紹介

次世代LEDバー照明「OPBシリーズ」

外観検査や寸法計測などに活躍する画像センサは、対象物を最適に撮影するために照明ユニットがセットで用いられます。消費電力が少なく長寿命のLED照明が主流ですが、OPBシリーズは、従来品に比べて優れた性能を実現しました。

明るさは3倍、価格は30%ダウンを実現

高輝度の表面実装型LEDに、特許出願中の自社開発レンズを組み合わせることで、前方放射効率を大幅に向上させ、光量を従来品の約3倍へと高めました。同時に、従来品比で30%の価格ダウンを実現した次世代製品です。



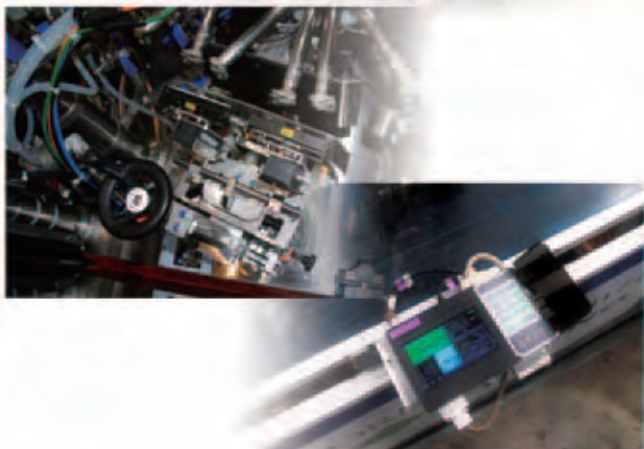
独自の明るさ変動補正回路を搭載

特許出願中の補正回路「FALUX(ファルクス)」を搭載。点灯後の温度上昇によって輝度低下のあった従来品と比べ、明るさ変動を1/20まで抑えることに成功。輝度を飛躍的に高め、業界最高水準を達成しました。

当社製の画像センサが業界標準に 「2009国際食品工業展(FOOMA JAPAN)」で実証

食の安全・安心への関心が高まる中で、賞味期限などが消費者に強く意識されるようになりました。しかし、その一方では、期限の印字ミスによる食品メーカーの自主回収は増加傾向にあり、精度の高い印字検査が必要不可欠となっています。

2009年6月、東京ビッグサイトで開催された「2009国際食品工業展」には664社が出展。印字検査機器を展示された25社のうち、15社が当社製の画像センサ「CVS/MVSシリーズ」をご搭載いただきました。主要メーカーが一堂に会したと言っても過言ではないこの展示会でのシェアは6割にも達し、当社製品が業界標準の地位を占めていることを実証しました。



当社製の画像センサを搭載いただいたお客様

イマージュ株式会社様

インクジェットプリンター
9020/9030

当社との技術提携による製品。当社の印字検査用画像センサ「MVS-OCR」との接続性を高めることで、設定を簡素化し、品質を高めた産業用インクジェットプリンター。



株式会社古川製作所様

給袋包装機
「FMB2000-14」

包装機械分野で国内トップシェアの古川製作所様。内容物を袋に充填して密封する給袋包装機の印



字検査機器として、当社の「CVS4」を搭載。

株式会社サトー様

サーマル印字機搭載
「タフアームAL1200」

自動認識システムの総合メーカー・サトー様が開発したラベル自動貼付機の印字検査機器



に当社の「CVS4」をご搭載。カップやトレーなどにラベルを貼り付ける機械です。

要約第2四半期連結財務諸表

第2四半期連結貸借対照表(要約)

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末	前中間 連結会計期間末	前連結会計 年度末
	2009年6月30日 現在	2008年6月30日 現在	2008年12月31日 現在
(資産の部)			
流動資産	1,654,632	1,795,961	1,839,512
現金及び預金	714,328	610,574	676,983
受取手形及び売掛金	589,631	775,045	759,466
たな卸資産	214,873	262,731	257,284
繰延税金資産	17,635	21,241	18,735
その他	118,322	127,082	127,706
貸倒引当金	△ 159	△ 714	△ 663
固定資産	983,607	1,069,805	1,041,914
有形固定資産	87,925	101,731	94,743
無形固定資産	41,636	61,437	33,046
投資その他の資産	854,045	906,636	914,124
資産合計	2,638,239	2,865,766	2,881,426

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末	前中間 連結会計期間末	前連結会計 年度末
	2009年6月30日 現在	2008年6月30日 現在	2008年12月31日 現在
(負債の部)			
流動負債	235,258	420,092	368,320
買掛金	115,251	196,183	158,431
1年内返済予定の長期借入金	10,572	12,948	12,948
未払法人税等	6,656	96,760	75,242
賞与引当金	10,613	9,102	10,289
その他	92,164	105,098	111,409
固定負債	103,565	149,073	110,021
負債合計	338,823	569,165	478,341
(純資産の部)			
資本金	546,525	546,525	546,525
資本剰余金	554,098	554,098	554,098
利益剰余金	1,181,081	1,196,222	1,297,118
評価・換算差額等	11,659	△ 245	550
新株予約権	1,444	—	211
少数株主持分	4,607	—	4,581
純資産合計	2,299,416	2,296,600	2,403,085
負債・純資産合計	2,638,239	2,865,766	2,881,426

第2四半期連結損益計算書(要約)

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結累計期間	前中間 連結会計期間	前連結 会計年度
	2009年1月1日から 2009年6月30日まで	2008年1月1日から 2008年6月30日まで	2008年1月1日から 2008年12月31日まで
売上高	1,333,875	1,823,561	3,806,951
売上原価	753,625	1,047,945	2,158,757
売上総利益	580,250	775,615	1,648,193
販売費及び一般管理費	553,066	606,805	1,271,316
営業利益	27,183	168,810	376,877
営業外収益	4,742	18,885	39,550
営業外費用	22,317	4,930	3,810
経常利益	9,609	182,765	412,617
特別利益	—	—	39,000
特別損失	19	235	66,178
税金等調整前四半期(当期)純利益	9,590	182,530	385,438
法人税、住民税及び事業税	4,748	101,153	190,239
法人税等調整額	43,612	△ 387	△ 23,181
少数株主利益(△損失)	25	△ 405	2,925
四半期(当期)純利益(△損失)	△ 38,796	82,169	215,455

第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結累計期間	前中間 連結会計期間	前連結 会計年度
	2009年1月1日から 2009年6月30日まで	2008年1月1日から 2008年6月30日まで	2008年1月1日から 2008年12月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	148,784	113,831	258,576
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 27,725	△ 66,609	△ 106,081
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 83,713	△ 68,764	△ 107,628
現金及び現金同等物の 増加額(△減少額)	37,345	△ 21,542	44,866
現金及び現金同等物の 期首残高	676,983	632,116	632,116
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	714,328	610,574	676,983

企業・株式情報

会社概要 (2009年6月30日現在)

会社名	オプテックス・エフエー株式会社
本社所在地	〒600-8815 京都市下京区中堂寺粟田町93 京都リサーチパーク4号館8F
設立	2002年1月7日
資本金	5億4,652万円
事業内容	ファクトリー・オートメーション用光電センサ関連機器、 装置の製造・販売等
従業員数	79名(連結)63名(単体)
事業所	東京営業所 名古屋営業所
関係会社	オプテックス株式会社(滋賀) ジックオプテックス株式会社(京都) 日本エフ・エーシステム株式会社(神奈川)

役員 (2009年6月30日現在)

代表取締役社長	小國 勇	取締役	小林 徹
取締役	坂口 誠邦	常勤監査役	見座 宏
取締役	岩田 俊彦	監査役	八幡 知行
取締役	西原 弘之	監査役	東 晃
取締役	湯口 翼		

沿革

昭和60年(1985)	オプテックス(株)において光電センサの開発に着手
昭和62年(1987)	ドイツのSICK GmbH(現SICK AG社)とのOEM契約により欧州向け出荷開始
平成元年(1989)	SICK GmbH(現SICK AG社)とオプテックス(株)が汎用型センサの開発を目的に合弁(出資比率50:50)で、ジックオプテックス(株)を設立
平成14年(2002)	オプテックス(株)の産業用光電センサ事業部門を分社し、京都市山科区にオプテックス・エフエー(株)設立
平成17年(2005)	大証「ヘラクレス」(スタンダード)上場
平成18年(2006)	LED照明事業の開始 名古屋営業所の開設
平成19年(2007)	2月 日本エフ・エーシステム株式会社を子会社化 11月 京都市下京区(京都リサーチパーク)に本社移転
平成21年(2009)	東京営業所の移転

株式の状況 (2009年6月30日現在)

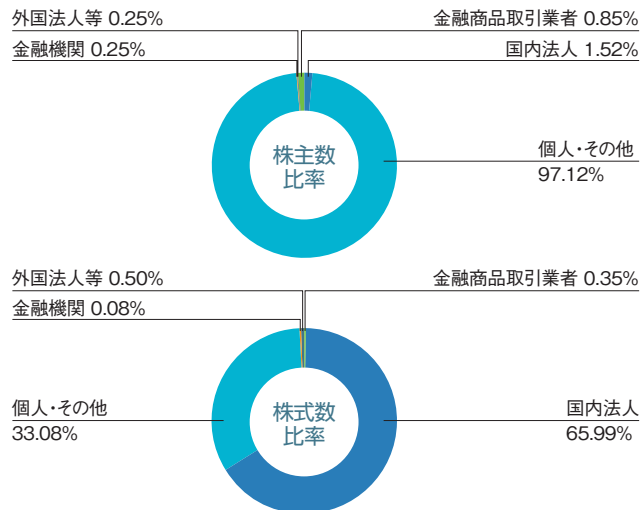
■ 株数及び株式数

会社が発行する株式の総数	80,000株
発行済み株式の総数	24,916株
1単元の株式の数	1株
株主数	1,182人

■ 大株主一覧

株主名	株数(株)	持比率(%)
オプテックス株式会社	13,600	54.58
IDEC株式会社	1,000	4.01
小國 勇	812	3.25
ニチコン株式会社	400	1.60
北陽電機株式会社	400	1.60
小林 徹	280	1.12
オフロム株式会社	262	1.05
岩田 俊彦	212	0.85
株式会社 山正マーケティングサービス	200	0.80
西原 弘之	196	0.78

■ 株式分布状況



当社ホームページを一新。ECサイトを開設しました。

<http://www.optex-fa.jp/>



トップページ



「FAショップ」トップ



株主・投資家情報トップ

2009年8月17日、当社ホームページを完全リニューアルしました。最も大きな特長は、BtoB(企業間取引)サイトでは画期的なポイント制を導入したEC(電子商取引)サイト「FAショップ」を開設したことです。当サイトでは、当社製品を約500品目販売し、

また購入額やアクセス回数に応じてたまったポイントは当社製品などと交換できます。このほかIR情報や製品情報を充実させましたので、ご覧いただければ幸いです。

株主メモ

上場証券取引所	大阪証券取引所ヘラクレス
証券コード	6661
決算期	12月31日
定時株主総会	3月に開催
基準日	12月31日
中間配当基準日	6月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

■ ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

見直しに関する注意事項

当報告書の記載内容のうち、歴史的事実でないものは将来に関する見直し及び計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは記載の見直しとは異なる場合がございます。